



平成22年6月14日

卓話 『私の見た日本文化（英題：My Japan）』

杏林大学 外国語学部 国際協力研究科 教授

ピータ・A・マックミラン 様



皆さまこんにちは。お招きいただきありがとうございます。私は20年前、日本に来て杏林大学で教授をやっておりまして、去年五十路になったとき、これからの人生をどう過ごせばいいか考え、これまでの生き方を少し変えていこうと思いました。今日はそのことについてお話しさせていただきます。

結論で言えば3つの方向性を考えています。最初は翻訳の活動です。私は和歌、短歌など、日本の詩の世界をこれから英語で紹介していきたいと思えます。これまでに百人一首を出しましたが、今は伊勢物語を翻訳しておりまして、その後、万葉集、芭蕉の俳句、現代詩に至るまで、日本の詩の世界を海外に紹介したいと思っています。私から見れば日本という国はあまりよく理解されていない。特に日本人の素晴らしい素直な精神があまりよく理解されていないと思えますが、日本の和歌や短歌を読むと、その精神が一番素直に映るのではないかと考えています。これはとても採算が合わないんですけど、別に翻訳の会社も作って商業ベースで仕事もしておりますので、もし何か役に立つことがあれば教えてください。

次は詩人としての仕事です。私が最も強く日本の和歌と短歌を翻訳しようと思ったのは、これまで学者ばかりが翻訳して、あまり詩的な翻訳がなかった

からです。私の詩的な翻訳が認められて賞をいただいたのだと思っています。今度はクリエイティブ・ニューポエトです。私は主に英語で詩を書いていますけれど、去年歌会始めに呼ばれて、それで日本語で詩集を出そうと決心しました。皇后さまの詩で「命あるものかなしさ 早春の 光の中に ユスリカの舞う」皇后さまがユスリカという小さな生き物に注目されたことに大変感銘を受けまして、それに対して私が詩を書きました。「あわれなる ユスリカにさえ朝日さす 雲上の光 永久とこに続かん」朝日さすというのは古典の中では天皇の意味、雲上も当然宮中ということで、元の意味はユスリカにさえ光を与える存在、両陛下も永遠に続いたらいいなという詩です。この詩も英訳いたしました。

最後に版画です。今、私は新富嶽三十六景を作成中で、来年、本にして出します。また展示会をしたいと思っています。私は富士山が大好きで、週末はいつも山中湖に籠って詩を書いたりしています。また北斎の富嶽三十六景も大好きで、これをオマージュしながら、現代の日本の社会を考えたいと思っています。翻訳はどちらかという外に向けて日本を紹介する、日本に対する恩返しだと思っていますけれど、この作品は日本に生きる自分として、日本人にちょっと考えてもらいたいというところです。

皆さんからみればめっちゃくちゃな仕事かも知れませんが、私の心の中では少しずつ統一していく感じはします。

ご静聴ありがとうございました。